

S-1 副作用の流涙に対する薬局プリアボイド事例

丸尾 俊博¹⁾、浅野 恭平²⁾、井上 祥平³⁾、古川 紗衣子⁴⁾、吉田 絢⁵⁾、仙波 瞳⁶⁾、
片山 珠季⁷⁾、永野 悠馬⁸⁾、前田 守⁸⁾、長谷川 佳孝⁸⁾、月岡 良太⁸⁾、
森澤 あずさ⁸⁾、大石 美也⁸⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 徳島大学病院店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 富山大学病院前店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 ポートアイランド店
- 4)(株)アインファーマシーズ アイン諏訪薬局
- 5)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 舟石川店
- 6)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 登川店
- 7)(株)アインファーマシーズ
- 8)(株)アインホールディングス

【目的】 消化器系癌をはじめ種々のがん種に適応を持つ S-1 では、悪心・嘔吐、下痢、骨髄抑制等の他に、流涙等の眼症状の副作用も発生する。投与開始 3 ヶ月以内に好発する流涙は、涙液に分泌された S-1 による角膜障害が一因とされ、人工涙液での洗浄が有用とされる。そこで、S-1 と点眼薬の併用状況とプリアボイド事例を調査し、薬局薬剤師の役割を検討した。

【方法】 2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局が応需した処方箋 59,844,017 枚を対象に、S-1 と人工涙液の処方状況を調査した。また、当社グループの薬局プリアボイドから S-1 による流涙に関する事例を抽出した(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0089)。

【結果】 S-1 と人工涙液の併用率は 0.50%であった。また、以下の事例を確認した。S-1 を 2 週間服用した 80 歳代の男性患者から「副作用は軽い食欲低下のみ」と聴取したが、薬局薬剤師が流涙について確認すると、服用開始後に発症していたことがわかった。患者は流涙の副作用を知らなかった。疑義照会を実施し、人工涙液が追加となった。

【考察】 本事例では薬局薬剤師が S-1 の副作用と好発時期を理解し、患者の認識外であった流涙を早期発見し、症状の悪化を未然に防いだ。致死的ではない眼の副作用であっても、長期にわたると不可逆的となり、患者 QOL を低下させる。また、添付文書では発生頻度は 0.1~5%未満であり、本結果よりも潜在的な発症の可能性もあ

る。したがって、薬局薬剤師は患者の気づきを能動的に聴取し、医療機関への情報提供を通じて安全な治療継続に貢献することが必要である。

(第31回医療薬学会年会(2021年10月, Web)にて発表, 一部要約)